

山梨県・観光立町を推進する富士河口湖町

～外国人対応で競争力強化～

日本不動産研究所 甲府支所
不動産鑑定士 渡邊 慶

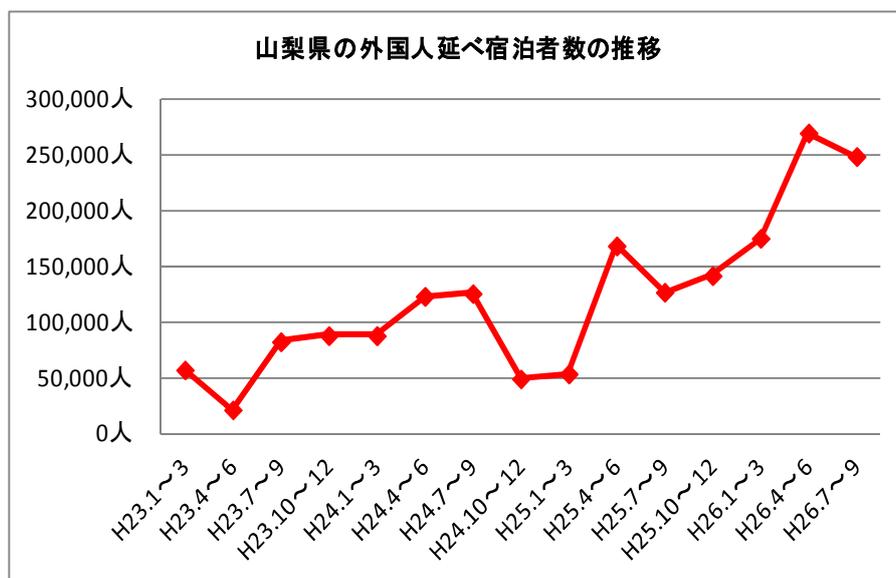
都心から 100 キロ圏内

富士河口湖町は、人口約 2 万 6 千人、山梨県の南東部に位置し、河口湖、西湖、精進湖、本栖湖を有する町である。都心から 100km 圏内であり、南は富士山の傾斜地、北は御坂山系に挟まれた高原のため、夏季は過ごしやすく、国内外から多くの人々が訪れる観光地となっている。



「富士河口湖町の大石公園から望む富士山」

従来、当地域における観光は、団体旅行に対応する形で発展してきたが、団体旅行の減少など観光志向が変化している中で、現在では外国人観光客の誘致を積極的に行っている。町では「富士河口湖町観光立町推進基本計画」を掲げ、外国人観光客のための案内サインやサービスの多言語化、無料公衆無線 LAN の整備拡充、外国人が楽しめるモデルコース作りなどの施策を進めており、国際観光地としての競争力の強化に努めている。



観光客は増加傾向

表（上）は、山梨県における外国人延べ宿泊者数の推移を示したものである。東日本大震災や尖閣諸島による外交問題などにより大きな落ち込みを経験したが、近年では増加傾向にある。特に平成 26 年においては、円安や富士山の世界遺産効果を背景に、1 月～3 月期は+225.9%、4 月～6 月期は+60.0%、7 月～9 月期は+95.9%と急増しており、他の都道府県と比較しても増加率が高くなっている。現在はこれらの観光需要を狙ったホテルの建設が増えてきており、株式会社星野リゾートのホテル「星のや富士」など数棟が開業予定となっている。



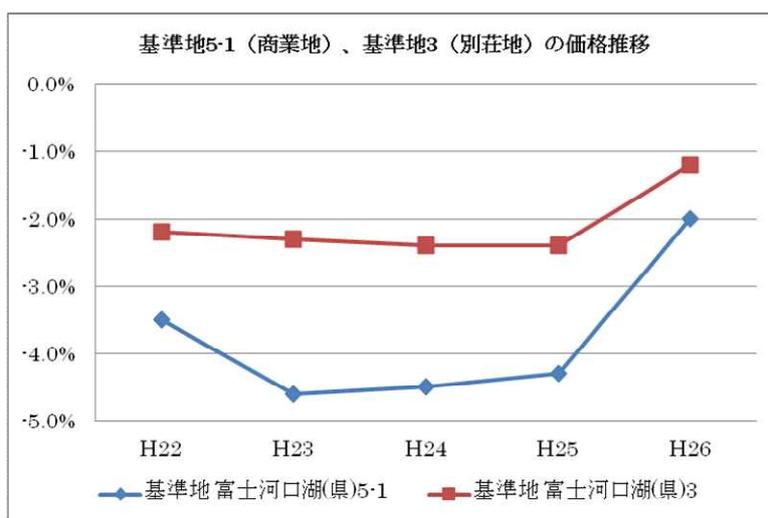
「河口湖畔に立ち並ぶ旅館（写真左）」



「富士御室浅間神社（写真右）」



「観光客を迎える玄関口、富士急河口湖駅」



地価、反転の兆し

富士河口湖町における地価の動きは、依然として下落傾向にあるが、その下落幅は縮小傾向にある。商業地については、ロードサイドに進出する商業施設に顧客を奪われ、衰退している商店街が存在する一方、急増している観光客の影響により売上を大きく伸ばしている店舗もあり、商況は回復傾向にある。別荘地についても、富裕層を中心に需要は堅調であり、地価は反転の兆しを見せ始めている。

山梨県では、「富士山世界遺産センター」の建設を予定しており、新たな観光スポットとしてその期待が寄せられている。政府が掲げる「地方創生」の目玉は観光であり、また深刻化する人口減少、地方衰退に歯止めをかける意味でも、観光を通じた地域活性化に期待したいところである。